柱２ 基礎・基本を確実に習得する

基礎・基本を確実に習得させるためには、学習意欲を高めながら、知識・技能を習得し、学習活動を見通してそれらを活用する力を身に付けさせるなどの指導を工夫改善することが大切です。

そのため、学習状況等に応じて重点的な指導や繰り返し学習、補充的な学習や発展的な学習などを効果的に取り入れたり、指導体制を工夫したりするとともに、家庭学習等との関連を図って一人一人が見通しをもって学ぶことのできる指導を工夫する必要があります。

知識・技能の習得について（算数科）

子ども一人一人が知識・技能を確実に習得し、それを活用して課題を解決する能力をはぐくむことができるよう、知識・技能の確実な習得においては、主体的に学習に取り組むことができる学習計画を作成し、見通しをもって学習活動に取り組んだり、学習内容を十分検討し、子どもたちがつまずきやすいなどの観点から、重点的な指導や繰り返し学習を指導計画に効果的に位置付け、その指導の工夫を図ったりする必要があります。

知識・技能の確実な習得を図る実践事例（小学校第５学年）

◎単　元　名：小数のかけ算とわり算を考えよう
◎単元の目標：小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができる。
◎単元の指導計画

時	学習のねらい	主な学習活動	評価・留意点
1	○今までに学習してきた乗法計算を振り返り、被乗数や被除数が小数の場合の乗法計算について興味・関心を高める。	・教科書を見ながら、これから学習する内容について自分なりの学習計画の見通しをもつ。	※適宜、グループでの相談、個別の支援などを行い、子ども一人一人の学習計画が作成できるようにする。
2	○小数に整数をかける計算の意味を理解する。	・0.4×6の計算の仕方を考える。 ・0.4×6の計算の仕方をまとめる。	考 小数に整数をかける計算の意味を、既習の整数の乗法計算に関連付けて考えている。
3	○小数に１位数をかける筆算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。 ○積が整数値になる場合の筆算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。	・3.5 ×7の計算の仕方を考える。 ・3.5 ×7の筆算の仕方を考える。 ・3.5 ×7の筆算の仕方をまとめる。 ・0.6 ×5の筆算の仕方を考える。	考 既習の整数の乗法の筆算を基にして、1／10の位までの小数に1位数をかける筆算の仕方を考えている。 表 積の1／10の位が0になる場合の筆算ができる。
4	○前時まで学習した小数に１位数をかける計算や、積が整数値になる計算ができるようにする。	・コース別に分かれて、自分が苦手とする計算練習をする。	※ＴＴによる指導形態を工夫し、個に応じた指導を行う。
5	○小数に2位数をかける筆算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。	・1.8×24の筆算の仕方を考える。 ・1.8×24の筆算の仕方をまとめる。	知 1／10の位までの小数に２位数をかける筆算の仕方を理解している。
6	○学習内容を確実に身に付けるようにする。	・自分の学習計画から自己評価をし、自分の苦手な筆算について確認する。 ・習熟の程度に応じた学習グループへ分かれ、学習内容の定着を図る。	表 自分で身に付けた知識を用いて、問題を解決することができる。 ※小数の乗法のよさを日常の生活場面との関連で確認できるようにする。
	小数のわり算へ		

教科　道徳　特別活動
総合的な学習の時間

工夫のポイント

学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れます。

子ども自身がこれまで身に付けた知識や技能が、これから学習する内容のどの部分で活用できるかを考えたり、本単元で学習する内容に見通しをもち、自分でしっかり身に付けたい学習内容を明確にしたりしながら、自分だけの学習計画を立て、意欲をもって学習に取り組めるようにします。

子どもの学習状況に応じて、重点的に指導したり、繰り返し学習をしたりします。

子ども一人一人の学習の状況に適切に応じ、基礎的・基本的な知識・技能の一層の習得を促すため、つまずきやすい学習内容を重点的に指導したり、必要に応じて繰り返し指導をしたりします。なお、繰り返し学習については、一単位時間の中、単元指導計画の中、学年間の中など、算数科の系統性も考慮した取組が大切です。また、他の領域や生活の様々なこの場面であらためて学習し直したりするなどの工夫を図ることも必要です。

知識・技能の確実な定着のために、じっくり時間をかけたり、指導形態の工夫を図ります。

子どもの実態や学習状況を踏まえて、習得に時間がかかる内容を見通し、その学習にかける時間を十分に確保するよう、指導計画を工夫します。

また、知識・技能の確実な定着を図るため、ティーム・ティーチングなどによる指導形態の工夫を図ります。

学習計画を基に自分の学習状況の自己評価をします。

単元の終わりなどにおいて、子どもの自己評価を位置付け、繰り返し指導の効果や時間をかけて指導した効果等を明らかにし、次の指導に生かすようにします。

◆工夫例：「学習の見通し」の工夫

本単元の学習目標、本単元で学習する内容などを示し、子ども自身が、学習の見通しをもち、これまで学習した内容がどの場面で使えるのかなど、学習計画を立てることができるようにしています。また、学習した内容がしっかり理解できたかなどの自己チェックする場を設け、自己を評価する力も育成しています。

【学習計画の実践例】

教科名	算　数	単元名	小数のかけ算とわり算を考えよう

◆学習の目標
この単元では、小数のかけ算やわり算の計算のしくみについて図や身の回りにある具体物を使って理解し、わかったことが違う計算でも使えるかを学習します。また、自分で問題を作ったりして、友達同士で解いたりします。

■わたしのがんばること
小数のかけ算やわり算のしくみについて、自分の方法で説明できるようにしたい。

◆学習する内容

	小単元名	おもな学習内容	学習ポイント	がんばりチェック	自己チェック欄
	小数に整数をかけてみよう	・0.4×6の計算の仕方を考えよう。 ・0.4×6の計算の仕方をまとめよう。	◇かけ算九九 ◇繰り上がりのあるかけ算の筆算	■小数のかけ算のしくみがわかる	

学習計画全体を見通して、子ども自身が、これまで学習した内容を活用できるものや、自分なりの努力目標を記入していきます。

※最後に自己評価シートも取り入れ、子ども自身が学習したことが理解できたかをチェックできるように工夫します。

◆工夫例：「重点化と繰り返し」の工夫

単元の中で子どもがつまずきやすい内容であったり、今後の学習のもとになったりするなどの観点から重点的に指導したり、繰り返し指導したりすることで、確実に基礎・基本を習得できるようにしています。

繰り返し学習

■１単位時間の中で繰り返し学習を行います。
・１単位時間の中で学習した内容の定着を図るため、終末段階において教科書の練習問題や、事前に準備した確認プリントなどで繰り返し学習をします。
例）3.5×7の同一問題の確認、5.8×6、1.2×5などの類似問題への挑戦　など

■単元の指導計画に繰り返し学習を位置付けます。
・重点的な指導が必要と考えられる指導内容においては、単元の指導計画の中で、繰り返し学習を位置付けて単元の目標を実現するための指導の工夫を図ります。
例）「小数に１位数をかける計算」について、３時間目だけではなく次の時間にコース別に分かれて繰り返し学習を行う。　など

■上学年において系統的に同じ内容、同じ領域などの場合、これまで学習した内容を再確認する活動を位置付け、繰り返し学習を行います。
・年間の指導計画において、同じ領域、類似した内容などで既習内容を繰り返し学習することはもとより、上学年、または中学校などの校種が違う場合においても、宿題や補習などにより学習し直したり、再確認できるようにしたりする指導の工夫を図ります。
例）習得させる基礎・基本の内容を領域ごとにわかるような系統図を作成する。　など

◆工夫例：「多様な指導形態」の工夫

補充的な学習や発展的な学習などのコース別学習、個に応じた指導などにおいて、指導方法・内容や指導体制の工夫を行い、子ども一人一人に基礎・基本の確実な習得を図っています。

【補充的な学習や発展的な学習の実践例】
●（小数）×（整数）、（小数）×（１位数）、積が整数値になる計算における子どもたちのつまずきと手立ての例を用意します。

つまずきの例	手立ての例
●（小数）×（整数）の計算の意味がわからない。	◆乗数が１増えれば積は被乗数分だけ増えることについて、テープ図や絵などで説明する。 ◆乗法九九の構成を確認したり、乗法九九の学習プリントに取り組ませる。　など

学習確認プリントなどの教材を用いて、子ども一人一人の学習状況を適切に評価します。

つまずき発見
用意していた「つまずき手立て例」に基づいて、具体的な支援を補充的な学習で行っていきます。

しっかり定着
子どもがそれまでに身に付けてきた基礎的・基本的な内容を基にして、より広げたり深めたりする発展的な学習を行います。

【指導体制の工夫例】
◎学習のねらいや、指導体制の目的などを明確にし、単元のはじめや途中から分かれるなどして、効果的にティーム・ティーチングが進められるようにします。

【指導体制の工夫例】
◎放課後や土曜日などを効果的に活用するなどして、教職経験のある地域の方や、地元にある大学の学生ボランティアなどの協力を得るなどして、指導体制の工夫を図ることも考えられます。